

仙台市障害者等保健福祉基礎調査 アンケート結果（概要）【居住環境】

1 現在の居住状況と将来の居住意向

(1) グループホーム（以下、GH）

現在の住まいでは、知的障害においてGHが多い。

また、家族においては、将来の住まいの場としてのGHへの意向が非常に強くなっている。

（単位：％）

種別	(A) 現在の住まい	(B) 将来の意向	(B) - (A) 将来－現在
身体障害（65歳未満）	0.3	2.8	2.5
身体障害（65歳以上）	0.2	1.7	1.5
知的障害	7.8		
知的障害（家族）	8.8	50.5	41.7
精神障害	3.1	2.8	▲0.3
精神障害（家族）	4.2	16.2	12.0
難病	0.3	0.8	0.5
発達障害	2.9	8.7	5.8
発達障害（家族）	0.0	32.1	32.1
障害児（家族）	0.0	20.1	20.1

(2) 障害のある方が暮らす施設（入所施設）

現在の住まいでは、発達障害（家族）において入所施設が多い。

また、家族においては、将来の住まいの場としての入所施設への意向が比較的強くなっている。

（単位：％）

種別	(A) 現在の住まい	(B) 将来の意向	(B) - (A) 将来－現在
身体障害（65歳未満）	2.8	5.0	2.2
身体障害（65歳以上）	1.2	5.3	4.1
知的障害			
知的障害（家族）	0.0	8.5	8.5
精神障害	1.3	4.1	2.8
精神障害（家族）	2.1	7.9	5.8
難病	0.3	2.8	2.5
発達障害	0.0	1.4	1.4
発達障害（家族）	6.4	17.9	11.3
障害児（家族）	0.0	12.0	12.0

2 障害福祉サービスの利用状況・利用意向

(1) 地域の中で暮らしていくための支援サービス（GH、福祉ホーム、地域移行・定着）

知的障害では、比較的現在の利用が多くなっている。

また、家族においては、今後の利用意向が非常に高くなっている一方で、不満も多くなっている。

(単位：%)

種別	(A) 現在の利用状況	(B) 将来の利用意向	(B) - (A) 将来-現在	不満
身体障害 (65 歳未満)	1.2	4.7	3.5	2.0
身体障害 (65 歳以上)	2.9	4.9	2.0	10.3
知的障害	15.8			
知的障害 (家族)	11.7	58.0	46.3	47.2
精神障害	3.1	8.8	5.7	10.8
精神障害 (家族)	9.4	34.6	25.2	40.8
難病	0.8	3.9	3.1	3.1
発達障害	3.6	18.1	14.5	24.0
発達障害 (家族)	2.9	44.3	41.4	32.8
障害児 (家族)	1.1	39.4	38.3	20.8

(2) 夜間の介護などの支援を入所により行うサービス（施設入所支援）

知的障害（家族）では、比較的現在の利用が多くなっている。

また、知的障害（家族）、障害児（家族）で今後の利用意向が強くなっている。

なお、不満だとの回答において、10%を超えている種別はない。

(単位：%)

種別	(A) 現在の利用状況	(B) 将来の利用意向	(B) - (A) 将来-現在	不満
身体障害 (65 歳未満)	2.5	4.7	2.2	8.0
身体障害 (65 歳以上)	2.7	4.9	2.2	6.9
知的障害				
知的障害 (家族)	6.7	19.8	13.1	8.9
精神障害	1.3	2.2	0.9	0.0
精神障害 (家族)	1.6	5.2	3.6	2.0
難病	0.6	3.9	3.3	3.1
発達障害	0.7	1.4	0.7	4.0
発達障害 (家族)	3.6	8.6	5.0	6.3
障害児 (家族)	1.1	13.1	12.0	4.0

3 今後充実してほしい施策（居住環境）

「グループホームなど住まいの場の充実」については、知的障害（家族）、精神障害（家族）、発達障害（家族）が多くなっており、家族からの要望が非常に強い。

「障害のある方も暮らしやすい住宅の確保」については、すべての種別から一定の要望がある。

（単位：％）

種別	グループホームなど 住まいの場の充実	障害のある方も暮らし やすい住宅の確保
身体障害（65歳未満）	6.5	16.8
身体障害（65歳以上）	6.3	10.7
知的障害	18.5	
知的障害（家族）	65.7	21.6
精神障害	7.5	21.1
精神障害（家族）	31.9	18.8
難病	3.6	11.6
発達障害	15.2	21.0
発達障害（家族）	49.3	15.0
障害児（家族）	27.0	13.1

4 自由記述欄概要

（1）グループホーム（以下、GH）

○ 設置に際しての課題

- ・ ニーズに対して定員数が足りておらず、将来的に受け入れてもらえるか分からず不安。
- ・ 土地や建物のための資金の確保が難しく、特に男性の世話人が集まらないため増設が難しい。
- ・ 消防法によるスプリンクラーの設置が義務付けられていることも増設を抑制している。
- ・ GHを設置する際に、地域住民の反対が強く、建設を断念することもある。

○ 障害特性等に応じた入居の課題

- ・ 以前存在していたケアホームのような場所が現行の制度では存在しておらず、最重度の障害がある場合、入所できる施設が宮城県には少ない。
- ・ 入所施設は満員の場合が多く、GHで暮らすには障害が重すぎる場合、どこで暮らしたらいいのか分からない。
- ・ 医療的ケアを要する方に対応したGHの整備が十分ではない。仙台市で現在行っている制度では、看護師は夜間配置がないため利用できない。また、医療的ケアについて対応可能な看護師の人数がそもそも少ない。
- ・ 知的障害のほかにてんかんなどの発作があったり、自閉的傾向が強かったりする場合、通常のGHに入ることができない。職員配置の少ない施設では特に夜間が不安であるため、夜間の人員配置を進めたり、人とのコミュニケーションが難しい方向けに独立性の高い個室を備えたりするなどのGHが必要ではないか。
- ・ 入居については、手がかかる人や親が高齢の人が優先され、手がかからない人や親が高齢でない人は待たされることがある。

○ 運営上の課題

- ・ 慢性的に職員が足りない状態だが、原因のひとつは給料が少なく生活の見通しが立たないため。仕事もきつく、労働環境が改善しなければ職員不足は改善しないのではないか。
- ・ 障害者年金2級の場合、収入よりも利用料のほうが大きくなり、預金を取り崩して生活することになる。そのため、家賃補助などが必要ではないか。
- ・ GHを利用している時間の過ごし方について、身体を動かす機会がない人もおり、本人の楽しみをどのように考えたらよいか悩む。
- ・ かなり築年数が経っているGHでは、暖房がないなど生活環境が悪いことがある。

○ 相談先についての課題

- ・ 家族が亡くなった後の本人の生活場所について、相談したいが窓口が分からない。

(2) 家族が亡くなった後の支援

○ 相談先についての課題

- ・ 相続時の税金面や、家族が亡くなった後の本人のサービス利用について、勉強や相談ができるところがわからない。弁護士、税理士、司法書士、年金事務所等が集まって話を聞くことができる場があればいいのではないか。

○ 制度上の課題

- ・ 成年後見制度や金銭管理など、家族が亡くなった後に利用することができる制度を充実する必要がある。

(3) その他

○ 賃貸契約に際しての差別

- ・ 住宅を探す際に、障害を打ち明けた時点で「障害者には貸せない」と断われた。

○ 地域生活

- ・ そもそも、寝たきりの障害がある人が地域で暮らしているということを、近所に住む人はどれくらい知っているのか分からない。